

令和元年度

# 授業改善推進プラン

大田区では、昨年に続き平成31年4月に、「大田区学習効果測定」を行いました。

本校は、その結果に基づき、本校の課題と、その課題の解決を図るための方策を整理し、「授業改善推進プラン」を作成しました。この授業改善推進プランに基づき学力向上に向けた取り組みを推進してまいります。



令和元年8月

大田区立大森第四小学校

# 授業改善推進プラン 教科ごとの改善プラン（小学校 国語科）

## 1 国語科における昨年度の授業改善推進プランの検証

### 取り組みにおける成果と課題

#### ○成果

- ・大田区学習効果測定の国語への関心・意欲態度の項目は徐々に上がっており、昨年度に比べて5年生は5.5ポイント、3.2ポイント上がった。
- ・音読は、家庭学習でも継続して練習してきたため、意欲的に取り組む児童が増えた。
- ・ひらがな50音は、授業や家庭学習でプリントや視写を継続して行い、マスの中にバランスよく書ける児童が増えた。
- ・入学当初より、話型指導を行い、子どもたちは丁寧な言葉を意識しながら発表している。
- ・言葉の意味を考えることで、文章の内容を読み取る力が高まった。
- ・適切な漢字を使った言葉をいくつか見付けることで、漢字を活用できる範囲が広まった。
- ・読み聞かせが好きで、読書に興味をもって取り組むことができた。
- ・物語文の読み方に慣れてきて、意欲的に人物の気持ちを考えようとしている。
- ・説明的な文章では、中心となる語句や文を押さえると共に、筆者の主張がどんなことなのかを考えながら、段落相互の関係や文章全体の構成を捉える読みを重視したことで、深く読み取れる児童が増えた。

#### ○課題

- ・文字の形を整えることができないことがある。
- ・音読でつまずくことがあり、文を滞りなく読むことができない。
- ・漢字習得率が悪い。漢字が読めないために音読も出来ない事がある。
- ・言葉についての知識・理解が不十分なために、文章を読んでも、十分に理解できないことがあった。
- ・書くことに苦手意識をもっている児童が多く、語彙力も乏しい。

## 2 国語科における課題・改善策

	意欲・関心	話す・聞く	読む	書く	言語事項
課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・読書の習慣が身についていない児童が多い。</li><li>・漢字を習得しようとする意欲が薄い。書き写すだけのドリル学習でも平気で間違えた字を書いている。</li><li>・進んで文章を書いたり、読書をしたりしようとする児童が少ない。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・順序よく、分かりやすく話すことができない。</li><li>・適切な言葉遣いや話し言葉が定着していない。</li><li>・大事なことを落とさずに聞くことができない</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・何のために読んでいるのか分からない。</li><li>・音読でつまずくことが多い。</li><li>・内容を読み取れず、文章を間違って読み取ることがよくある。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・書くことに抵抗がある。</li><li>・構成を考えて書くことが難しい。</li><li>・自分の意見と理由を区別して書くことができない。</li><li>・順序立てて文章を書いたり、内容を膨らませて書いたりすることが苦手である。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ひらがな、カタカナ、漢字、助詞などが身に付いていない。</li><li>・漢字の習得率が低い。</li><li>・指示語や運用修飾語について理解していない。</li></ul>
改善方針	<ul style="list-style-type: none"><li>・読書の楽しさを感じさせる。</li><li>・漢字テストなどの合格ラインを決めて、合格を意識して課題に取り組めるよう工夫する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・話型を示す。</li><li>・聞く姿勢や態度を普段から身に付けさせるようにする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・全員で話し合って解決したい課題を設定する。</li><li>・音読の機会を増やし、内容の理解が、より確実にできるようにする。</li><li>・音読がしっかりとできるようにさせる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・書きたいと思う課題を設定する。</li><li>・書いた作文を見直す機会を設定する。</li><li>・書く活動を増やして、書くことに慣れるようにする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・正しい助詞や言葉の使い方を身に付けさせる。</li><li>・正しい書き表し方を身に付けられるようにする。</li><li>・宿題の取り組みをしっかりやらせる。</li></ul>

改善策 1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>読み聞かせや図書の授業を充実させ、読書に親しむ心を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話型を提示し、スピーチを通して、順序を考えながら話す力を付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合う価値のある課題を設定することで、児童がすすんで読むことができるようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「せんせいああのね」の短作文を取り入れ、書くことに対する抵抗感をなくす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文字の学習では使い方の例を多く出し、文章中で正しく使えるようにする。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達の感想を紹介することで、いろいろな本に興味を抱けるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>聞く姿勢や態度を指導するとともに、話型を提示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「はじめ」「中」「おわり」の構成を意識して文章を書かせる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の中で友達と交代で読むなど、方法の工夫をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>間違えやすい「は」と「わ」や、見落としがちな促音をしっかり指導する。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書で学習した内容の関連図書を教室に置く。</li> <li>図書室に行く機会を多くとる。</li> <li>漢字テストは、学級ごとに合格点を決めて、目標をもって課題に取り組めるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語の授業以外でも、聞く姿勢や態度について指導していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書く活動で身に付けることを明確にして、指導していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の中で音読のチェックをして、読み方の指導を徹底する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>宿題をやってこない児童への個別の指導を徹底する。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>本の紹介をしたり、自分の意見を書いてたりする機会を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合う内容を明確にして、整理しながら話したり聞いたりするようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文型を使って書くことに慣れさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大事な言葉に印を付けたり、要点を確認せたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>その漢字を使った単語や文章作りを行う。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>日記や意見文を書く機会を多く設けたり、本の紹介を行ったりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>普段から敬語や常態、敬体を意識させ、話をしたり文章を書かせたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文型を示し、慣れさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物語や説明文を読む際に、常に意識させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>練習させるだけでなく、ゲームやクイズなども取り入れて、苦手意識をなくすようにする。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>日記や意見文を書く機会を多く設けたり、本の紹介を行ったりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>普段から敬語や常態、敬体を意識させ、話をしたり文章を書かせたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文型を示し、慣れさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物語や説明文を読む際に、常に意識させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>練習させるだけでなく、ゲームやクイズなども取り入れて、苦手意識をなくすようにする。</li> </ul>

# 授業改善推進プラン 教科ごとの改善プラン（小学校社会科）

## 1 社会科における昨年度の授業改善推進プランの検証

### 取り組みにおける成果と課題

#### ○成果

##### <中学年>

- ・見学や体験学習を取り入れることにより、社会科に対する意欲・関心が高まり、学習内容の理解がすすんだ。
- ・町探検で見付けた建物などを地図にまとめる学習では、自分の生活体験を想起しながら意欲的に取り組めた。

##### <高学年>

- ・5年生は、全ての観点で、昨年度よりも正答率が高くなった。
- ・学習のめあてをもたせたり、視聴覚教材を提示したりすることで意欲的に学習することにつながった。
- ・課題に対して文章で答える機会をもった。また、グラフの読み取り方を細かく提示したことで、資料の読み取り方が分かる児童が増えた。

#### ○課題

##### <中学年>

- ・学習効果測定において、全ての観点で区の平均正答率より約6ポイントから10ポイント低い。
- ・調べ学習において、資料を読み取りそこから分かったことや自分の考えを適切に表現することが苦手な児童が多い。
- ・資料を読み取り、めあてに沿って考えたり、複数の資料を比べて考えたりするなどの改善が必要である。

##### <高学年>

- ・全般的に学習効果測定において区の平均正答率より低い現状である。特に「社会的事象への関心・意欲・態度」の項目が低い。
- ・導入時に意欲的に学習を始められても、その意欲を継続させることが難しい。
- ・資料を読み取ったことについて複数の資料を比べてめあてに沿って考え、ペアやグループで話し合いをさせ、フラッシュカードや復習プリントなどを用いて既習事項を定着させたりする必要がある。

## 2 社会科における課題・改善策

	社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表 現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・社会的事象について積極的に学習したり、資料を読み取ったりすることへの関心が低い。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・資料料を読み取ったことからめあてについて考えることや、他の資料と比較しながら特徴を捉えることに課題がある。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・様々な資料を読み取ったり、活用したりする力が不十分である。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・地図記号や方位などの理解が不十分である。既習事項の定着に課題がある。</li></ul>
改善方針	<ul style="list-style-type: none"><li>・児童の関心・意欲を高めるために、単元導入時に提示する資料を工夫したり、単元を通した学習問題を立てたりする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・資料を読み取ったことから自分の考えをもたせる。資料を比較する力を高める。自分の考えを話し合う活動を取り入れる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・めあてに沿って、調べる観点を明確にさせてから、資料を読み取らせる。資料の読み取り方を丁寧に指導する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・地図帳を活用する機会を増やす。</li><li>・既習事項を定着させる工夫をする。</li></ul>

改善策3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の資料だけではなく、教員が教材を工夫して提示する。児童に身近なものや体験しとなどを用いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>写真や資料を2種類用意し、違いや同じところなど比較する活動を通して、特徴をノートにまとめられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グラフや表の読み取り方を、その都度丁寧に指導し、ノートにポイントを書かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会科で使用される語句を、授業の始めに復習し、知識の定着を図る。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>実物や模型、映像資料、ニュースや新聞などの記事など児童が興味を示しそうな資料を活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>収集した情報をできるだけ正しく記録させ、まとめたり発表せたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>棒グラフ・折れ線グラフ等のグラフの読み取り方や地図帳の使い方を丁寧に指導する。複数の資料を関連付けて考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地図帳を使う機会を増やしたり、復習プリントを行ったりして地図記号や都道府県などを確実に覚えさせる。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が調べてみたいと思うような資料を提示し、そこから単元を通した学習問題を考えさせる。既習事項や体験したことを見かせるように児童に想起させ、その内容を板書して提示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアやグループ等で交流することや、教師のモデルを示して資料を読み取ったことから自分の考えをもたせられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>めあてに照らし合わせて、調べる観点を明確にした上で資料を読み取らせる。複数の資料を関連付けて考えられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の国々や農業、工業で学習した内容をフラッシュカードやミニテスト等を活用して知識の定着を図る。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童にとって身近な教材や、意外性のある教材を提示して、児童の关心や意欲を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>めあてに沿ったことを考え、表現する場面を多く設ける。ペアでの話し合いをすることで、自分の考えを自信をもって表現できるようしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>表やグラフなどの資料を読み取る際、何を表している資料なのか、横軸・縦軸は何を表しているのか、一目盛はいくつ分を表しているのかなど丁寧に指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史上の人物やその人物が行ったことなど学習した重要語句を、定期的に復習させて知識の定着を図る。</li> </ul>

# 令和元年度 授業改善推進プラン 教科ごとの改善プラン（小学校算数科）

## 1 算数科における昨年度の授業改善推進プランの検証

### 取り組みにおける成果と課題

#### ○成果

- ・具体物を操作したり、図をかいたりする算数的活動を取り入れたことにより、数の合成・分解ができるようになつたり、図形の性質について理解できたりする児童が増えた。
- ・文章問題では分かっていることや演算決定のキーワードに線を引くなど、分析的に解かせ、正しく立式する児童が増えた。
- ・少人数・習熟度別での学習を行ったことで、個々のつまずきに素早く対応できた。
- ・朝学習の時間や家庭学習でプリント等を使って繰り返し計算練習をさせた項目では一定程度の定着が見られ、区の目標値を上回る領域もあった。

#### ○課題

- ・文章問題で何が問われているのかを読み取り、性格に立式し、正しく答えを書くのが難しい児童がいる。
- ・10 以上の計算、かけ算の九九など基礎となる計算が定着していないので、その後のわり算や小数の計算が理解できない児童がいる。今後は基礎的基本的な計算を身に付けられるように繰り返し復習を行う必要がある。
- ・単位についての実感を伴った理解が育っておらず、単位換算が不正確である。
- ・具体物や数直線などを用いて学習内容を実感して理解させると共に、既習事項を定着させ達成感をもたらすことを通して「関心・意欲・態度」を高めていく必要がある。
- ・高学年になって学習する小数・分数の計算、百分率とグラフ、割合等の理解が不十分である。数量関係領域の大田区効果測定の結果でも、4年生で14.2 ポイント、5年生で11.3 ポイント、6年で15.1 ポイント区の平均を下回っており、復習を繰り返し、定着を図っていく必要がある。

## 2 算数科における課題・改善策

	意欲・関心	数学的な考え方	技能	知識・理解
課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・算数に自信がある児童と難しいと苦手意識を感じる児童の差が大きい。</li><li>・算数に意欲的に学習しようとする児童が学年が上がっていくにつれて少なくなる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・自分の考えを上手に説明できない。</li><li>・文章問題から立式することができない。</li><li>・既習事項を生かして問題の解き方を考え表現することに課題がある。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・四則計算技能が定着しない。</li><li>・かけ算九九が定着しないままの児童が少なくない。</li><li>・特に、小数と分数の計算に課題がある。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・数の仕組み、位取りなどの理解が不十分。</li><li>・「時間と時刻」「長さ」「かさ」などの「単位の換算」に関して、基礎的な知識が乏しい</li></ul>
改善方針	<ul style="list-style-type: none"><li>・楽しみながら数や図形の概念を身に付けさせるなど授業スタイルを見直す。</li><li>・スマールステップで授業を展開していく。</li><li>・授業の導入を工夫し、学習への意欲を育てる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・具体物を活用して、具体的なイメージをもたせる。</li><li>・問題解決型の学習を積極的に取り入れる。</li><li>・数量の関係を表やグラフを用いて表す活動を取り入れる。</li><li>・式を数直線や図などと関連付けて考えさせ、自分の考えを説明できるようにする。</li><li>・ペアなどで話し合う活動を取り入れる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・反復学習および日常の生活体験に結びつけた学習をさせる。</li><li>・繰り返し九九を定着させる練習を行う。</li><li>・繰り返し計算練習をする</li><li>・ドリル学習を繰り返し行い、基礎的計算方法の定着を図る。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・具体物や具体例を用いて説明したり考えさせたりする。</li><li>・日常の生活体験に結びつけた学習をさせ、量感を掴めるようにする。</li><li>・反復学習をさせて基本的学習内容を定着させる。</li></ul>

改善 要素 1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入や終末で数を使つたゲームや復習を取り入れ、意欲を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアで説明し合う時間を作る。</li> <li>教師が話し方を示したり、言い方を掲示したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習で計算カードの反復練習を行い、計算技能の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の中で既習事項を確認する場面を設け、知識の定着をチェックし、指導に生かす。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に楽しみながら課題を解決できるような授業を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題の内容が具体的にイメージできるように、図を活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>繰り返し取り組むことで、自信をもってやり遂げられるように指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>100がいくつ分・10がいくつ分という表現方法などへの理解を深めさせる。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な計算方法や既習事項など振り返る時間を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章問題では、自分の考えをノートに書く。ペアやグループで交流し、多様な考え方方に気付けるようにする。</li> <li>見通しをもち、筋道立てで考えたことをノートに記入したり、話し合わせたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝学習などで百ます計算等を取り入れ、しっかりと定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体物を提示する。計測等をする時間を設ける。</li> <li>作業的・体験的な活動を取り入れる。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な計算方法や既習事項など振り返る時間を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考え方の方法を提示し、自分の考えをノートに書いたり、友達同士で発表し合ったりする時間を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計算スキルやプリントを活用し、計算、文章題等に取り組ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>反復学習をさせて基本的学習内容を定着させる。</li> <li>図形の名称や性質について、知識として定着させる。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題場面を身近な生活体験と結びつけて提示し、問題を実感をもって捉えられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項を使って自分の考えをまとめたり発表したりできるように、既習事項を掲示したり、復習させたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計算のポイントを説明し、ミニテストを行わせ、計算する力を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容を丁寧に説明し、それを掲示物にしたり、繰り返し問題を解かせたりして定着を図る。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題場面を身近な生活体験と結びつけて提示し、問題を実感をもって捉えられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項を使って自分の考えをまとめたり発表したりできるように、既習事項を掲示したり、復習させたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計算のポイントを説明し、ミニテストを行わせ、計算する力を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容を丁寧に説明し、それを掲示物にしたり、繰り返し問題を解かせたりして定着を図る。</li> </ul>

# 授業改善推進プラン 教科ごとの改善プラン（小学校理科）

## 1 理科における昨年度の授業改善推進プランの検証

### 取り組みにおける成果と課題

#### ○成果

- ・動植物の観察では、観点を与えることでよく観察し、まとめることができる。
- ・校庭や学年園がないなどの制約がありながらも、観察や実験をする機会を工夫することで意欲的に学習できるようになってきた。
- ・課題提示→予想→予想理由→実験→結果→考察→結論などの学習過程を繰り返し指導することで、児童が見通しをもって実験や観察に取り組むことができた。
- ・児童の興味を高めるよう体験的な活動を多く取り入れる、という方針により実験等の活動を重点的に取り入れた学習について定着がみられる。
- ・考察や分かったことなどの書き方を例示することで、徐々に自分の考えを書ける児童が増えてきた。
- ・昨年度と比較すると、4・6年生については前年度校内正答率を下回ったものの、4年生のこん虫のからだのつくりや電気の通り道については目標値を達成している。実験や観察をする機会を多く取り入れた学習について、意欲的の向上と共に知識の定着がみられる。

#### ○課題

- ・全体的に区平均、目標値を上回る結果が得られなかつたため、どの観点においても改善が必要である。特に、科学的な思考が必要な分野である。実験の意味や実験方法を確実に定着させてから実験をするようにしたい。
- ・課題に対して、自ら実験方法を考え予想を立てたり、結果から考察したりする力が十分ではない。主体的に実験に取り組むだけでなく、課題の解決を通して科学的な見方、考え方を育てたい。
- ・実験や観察をしたことで技能や知識も定着が見られた。しかしそこから更に発展して考えたり、得た知識を基に他の事象と関連連付けて考えたりするような活用の力を高めることが必要である。

## 2 理科における課題・改善策

	意欲・関心	思考・判断・表現	技能	知識・理解
課題	・実験・観察は意欲的に取り組めるが、本時の課題と単元全体の課題をつなげて考えられない。	・実験方法や結果から分かるなどを考察し、自分の言葉で説明することが難しい。	・課題を意識して実験に取り組めていない児童がいる。 ・実験器具の正しい扱いが身に付いておらず、実験手順でつまづく児童がいる。	・学習したことが定着していない。 ・既習事項と結び付けて考えにくい。
改善方針	・単元全体および本時の課題を共有し、児童一人一人に課題解決を目指した実験・観察を行わせる。	・課題に基づいて視点をもち、自分の考えを表現する力を身に付ける。	・課題を意識して実験に取り組み、安全性について考え方正しい使い方を身に付ける。	・ふりかえりや既習単元とのつながりを重視し、理解の定着を図るようにする。
3年	・植物や昆虫を実際に育て、生き物への愛情を育むとともに、成長のきまりや体のつくりの理解を図る。	・実験や観察を通して差異点や共通点を考察したり、予想や仮設をもたせたりする時間を作り、ノートに記入させる。	・一人一人が実験器具を使うことができるよう、活動場面を多く設定する。	・観察カードやワークシートへの記入、実験についての話し合いを通して、考えを深めたり自分の考えを伝えたりする時間を設ける。
4年	・身近な生活から課題意識をもたせることで主体的に実験に取り組ませる	・考察の書き方の良い例や使うべき用語を提示する。	・教師が実験の手本や例を提示し、理由を考えさせる。 ・一人一人が実験器具を扱うよう活動を工夫する。	・前の単元と関連付けて考えられるような声掛けを行う。
5年	・ビデオを見せたり、メダカの卵を顕微鏡で見たりして、意欲・関心を高める。	・課題→予想→予想理由→実験方法→結果→考察の流れを定着させる。	・考察を書く際に ・何の実験か ・何を調べたのかを書かせる。	・既習事項を元に、学習内容がつながるように、視覚教材を用いてふり返りを行ってから単元に入る。
6年	・ビデオを見せたり、具体物を観察させたりして、意欲・関心を高める。	・課題→予想→予想理由→実験方法→結果→考察の流れを定着させる。	・考察を書く際に ・何の実験か ・何を調べたのかを書かせる。	・既習事項を元に、学習内容がつながるように、視覚教材を用いてふり返りを行ってから単元に入る。

# 授業改善推進プラン 教科ごとの改善プラン（小学校生活科）

## 1 生活科における昨年度の授業改善推進プランの検証

### 取り組みにおける成果と課題

#### ○成果

<1年>

- ・一人ひとりに朝顔の鉢を持たせて関わらせることで、植物の生長の変化を楽しみ、観察の視点を見つけることができた。
- ・学年のプランターにコスモスを植え、観察することで植物への関心がひろがった。
- ・2年生に連れて行ってもらった学校探検から発展して、グループで学校探検やインタビューを行い、学校と地域に关心をもつことができた。
- ・近くの広場で遊ぶ機会を設け、季節ごとの遊びに关心をもち、楽しく遊ぶことができた。
- ・区立保育園との交流会を通して、自分たちの成長を確認し、2年に進級する意欲や自己肯定感を高めていく。

<2年>

- ・ゲストティーチャーとの交流を通して大四小への関心を深めることができた。
- ・年間を通して植物を育てることで、生き物への愛着をもたせることができた。

#### ○課題

<1年>

- ・感じたこと、気付いたことを言葉で表現することが難しい児童がいる。
- ・自然が少ない環境の中で、地域の自然を活用する機会を増やす必要がある。

<2年>

- ・地域の施設について学んだあと、施設を活用することができなかなかできなかつた。
- ・寒い季節にも、生き物がそれぞれの過ごし方で生きている感じることが難しかつた。

## 2 生活科における課題・改善策

	意欲・関心・態度	思考・判断・表現	気付き
課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・学校に自然が少ない。季節を感じることが難しい。(1年)</li><li>・学んだことを次に生かしていくとする意識がまだ薄い。(2年)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・何を見てどう表現していいか分からぬ児童がいる。(1年)</li><li>・考えたことを文で表現することが難しいことがある。(2年)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・深い気付きにつながらない。(1年)</li><li>・季節に応じた生き物の過ごし方について、思いをめぐらせることが難しい。(2年)</li></ul>
改善方針	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域の公園や育てている植物を活用する。(1年)</li><li>・学習が終わった後で、地域内の施設に、どのように関わったらよいかを考える機会をもたせる。(2年)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・見る視点をはっきりさせる。(1年)</li><li>・友達の感想を紹介しあうことで、文に記して記録していく方法を学びあう。(2年)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・学校だけではなく、地域の人材や自然を活用する。(1年)</li><li>・日常生活の中で、季節による動植物の様子の変化を感じられるようにする。(2年)</li></ul>
改善策1年	<ul style="list-style-type: none"><li>・毎日継続して植物の世話をを行うことで、成長の変化に关心をもたせる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・観察する際、見る視点を定めたり具体的にどのように表現したりしたらよいかを示していく。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域や学校の職員との交流を多くもつことで、より深く具体的な気付きにつながるようにする。</li></ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域の図書館や公園の利用方法について、自分の経験を伝え合う機会をもたせる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・児童が記録したものを適宜掲示し、それを見て学ぶ機会をさらに増やす。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・鳥や虫の鳴き声など、日常生活の中で発見したことを紹介・発表する機会を設ける。</li></ul>

# 授業改善推進プラン 教科ごとの改善プラン（小学校音楽科）

## 1 音楽科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

### ○成果

- ・音楽表現の意欲を高めるために、低学年では身体表現やリズム遊びを多く採り入れ、また、鍵盤ハーモニカは外部講師を招いて基本となる奏法を身に付けることで楽しんで表現する児童が増えた。中・高学年では歌唱や楽器演奏の基礎的な技法の指導を積み重ねたことで、積極的に音楽表現をしようとする児童が増えた。
- ・楽曲にふさわしい音楽表現を工夫するために楽曲の気分や雰囲気を感じさせるように音楽の要素や用語を多く用い、グループ学習を行うことで表現の手段を考えたり選んだりできる児童が増えた。
- ・技能については、簡単な聴音や階名唱や、呼吸やタンギングのための具体的な体の使い方、楽器の奏法などを毎時間繰り返すことで、積み重ねている。リコーダーは演奏できる楽曲を多く用意し、自分に合った曲を選んでチャレンジできるようにし、技能の向上がみられている。
- ・鑑賞については、楽曲を特徴付ける音楽の要素や旋律の特徴を感じて表現するために言語に限らず、身体表現や絵、図なども用いてよいとしていることで、語彙の少ない児童が感受の表現をできるようにした。

### ○課題

- ・意欲は技能の裏打ちがないと音楽表現への取り組みが難しくなり、学習のルールが守れなくなっていく。
- ・音楽表現の工夫は、技能が身に付いていないため、自分がどんな表現をしているかがわからなかったり、語彙や経験値が少なかつたりするため、どんな表現をしたいか思いや意図をもてない児童が学年が上がるにつれて増えていく傾向がある。
- ・技能については 歌唱は、低学年の元気に歌うから、高学年の発声・発音・音程といったことを求められるにつれて技能の習得が難しくなる。器楽では繰り返し個人指導を行っているが、鍵盤ハーモニカ・リコーダーともにタンギングと指遣いの習得に課題がある児童がなかなか減少せず、学年が上がるにつれて個人差が開いていく。
- ・鑑賞については、曲の感じを身体表現であらわすことはできるが、感じたことや聞き取った旋律の特徴や音楽の要素を言葉でうまく表現したり説明したりすることについて個人差が大きい。

## 2 音楽科における課題・改善策

	意欲・関心	創意工夫	技能	鑑賞
課題	・高学年になるほど、多人数での合奏や合唱では音楽表現をするが、一人では音楽表現を恥ずかしがる傾向がある児童が増えてくる。	・学年が上がるにつれて、読譜や技能の習得の困難さや語彙の少なさから、自分なりの表現方法を工夫することが難しい児童が増えてくる。	・歌唱は、低学年の元気に歌うから、高学年の発声・発音・音程といったことを求められるにつれて技能の習得が難しくなってくる。器楽では鍵盤ハーモニカ・リコーダーとともにタンギングと指遣いの習得に課題がある児童がなかなか減少しない。いずれも個人差が大きく、つまずくと追いつくのが難しい。	音楽を聴いて曲想を感じることはできるが、音楽の要素や曲想を言葉で表現することが難しい。
改善方針	・音感や歌唱・楽器演奏などの音楽表現をするための意欲と自信の根拠となる技能を低学年から段階的に高める。	・楽曲にふさわしい音楽表現をするためにどうしたいか、どのような奏法を使うかなど、考えたことを伝えられるように身体表現の方法や語彙を増やす。	・基礎的な奏法や読譜を繰り返し練習する。また、グループ活動やペア学習や個別指導を行うことで技能の向上を図るようにする。	・音楽の要素や曲想を表す言葉を覚えさせ、身体表現や言葉で感じたことや気付いたことを表現できるようにする。

改善策1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽に合わせて体を動かすことで、音楽表現を楽しいと感じさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌ったり、演奏したりするとき、どのような工夫をしたら良いのかを考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>階名唱や鍵盤ハーモニカの演奏、簡単な楽譜を読むことを繰り返し練習させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽を聴いた感じを、低学年の言葉と音楽の言葉で結びつけて表す活動をする。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達の歌や演奏を自分のものと聴き合い、認め合う機会を多く設け、音楽表現の楽しさを感じさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌ったり演奏したりするときに、のびのびと自分の考えたことを表現してみる機会を与える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>階名唱や鍵盤ハーモニカの演奏を繰り返し指導して、技能の習熟を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ゆっくり・いそいでいる・ねむくなる・驚く」などの単語を、選択肢として提示する。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>階名唱や視唱、リコーダーの演奏や読譜を繰り返し練習させ、特にリコーダーは個別指導をすることでやればできるという意欲と自信をもたせるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>範唱や範奏や楽譜から楽曲の特徴を感じ取り、自分でどう表現したらよいか音楽の要素と結びつけて考えられるような選曲や楽譜の提示をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>階名唱や視唱を行い、楽譜上の音と実際の音の関連を意識させる。リコーダーはタンギングや基本的な指遣いを繰り返し指導し、必要に応じて個別指導も行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽を聴いて感じ取ったことを音楽の要素と結びつけて表現するために、ワークシートや教室掲示の工夫をする。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いに練習の成果を聞き合ったり、教え合ったりすることで、友達と積極的に関わる時間を設け、音楽表現をする事への意欲と自信をもたせるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽曲の特徴を感じ取り、どう表現したらよいか音楽の要素と結びつけて、友達と意見を交換する活動を多く採り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌唱は発声や発音に気を付けて伸びやかな声で歌えるように体の使い方を指導する。リコーダーは基本的な奏法やサミングが使われる音域の運指の指導を繰り返し行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽を聴いて感じ取ったことを音楽の要素と結びつけて表現するために、鑑賞教材の提示の仕方やワークシートを工夫する。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別の課題を明確にして歌唱や楽器の練習に取り組ませ、できることを増やすことで音楽表現への意欲や関心を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>範唱や範奏や読譜から音楽の特徴を音楽の要素と関連させて感じ取り、自分の表現に生かすために楽譜への書き込みやグループでの意見交換を多く採り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発声や発音の基礎練習を行い、体の使い方を体得せしめるようにする。楽器の基本的な奏法は繰り返し指導し、必要に応じて個別指導を行う。また、児童が興味をもてる楽曲を取り入れ、取り組みやすくする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽を、曲想の変化や特徴を音楽の要素と関連させて聴き取ったことを表現するために、鑑賞教材の提示の仕方やワークシートを工夫する。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別の課題を明確にして歌唱や楽器の練習に取り組ませ、楽曲を仕上げることで達成感をもたらせ、音楽表現への意欲や関心を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>範唱や範奏や読譜から音楽の特徴や物語性を音楽の要素と関連させて感受し、自分でどう表現するか考えるために、楽譜への書き込みやグループでの意見交換や発表を多く採り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発声や発音の基礎練習を行い、頭声発声のための体の使い方を体得させるようになる。楽器の基本的な奏法は繰り返し指導し、必要に応じて個別指導を行う。また、児童が興味をもてる楽曲を取り入れ、取り組みやすくする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲想の変化や特徴を音楽の要素や学習したり、生活の中で聴いたりした音楽と関連させながら聴き取ったことを表現するために、鑑賞教材の提示の仕方やワークシートを工夫する。</li> </ul>

# 授業改善推進プラン 教科ごとの改善プラン（小学校 図画工作科）

## 1 図画工作科における昨年度の授業改善推進プランの検証

### 取り組みにおける成果と課題

#### ○成果

- ・道具の適切な使い方や絵の具の技法は、繰り返し指導することで、安全かつ積極的に活用する姿勢が養われた。
- ・板書により、活動内容を理解、見通しをもって表現する児童が増えた。
- ・絵の具の使い方の指導を通して、色づくりを進んで行う姿勢に繋がった。
- ・個別指導と担任との情報共有により、児童の理解を深めることができた。

#### ○課題

- ・自分の思い付いたものを絵に表したり、形にしたりして表現していくことが、苦手であると感じている児童がいる。
- ・鑑賞した作品のよさや感じたことを、言葉で表す活動が難しい児童がいる。また、それぞれの作品のよさを自分の作品に活用していこうとする意欲が薄い。

## 2 図画工作科における課題・改善策

	造形への関心 ・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
課題	・自分の表現を良くするために、主体的に取り組むことが難しい児童がいる。	・自分のイメージを表現する活動に難しさを感じている児童がいる。	・材料や用具の使い方は、経験をすることで楽しんで活用する意欲に繋がっているが、定着に個人差がある。	・鑑賞した作品のよさを言葉にしたり、自分の表現に活用したりする意欲が薄い。
改善方針	・お互いの表現を鑑賞して、自分の表現を深める時間を設けることで、表現を高め合い、自分のイメージを表現する楽しさを味わわせる。	・表現を試す場を設け、表現の過程を重視し、児童自身が自分のめあてをもつことができるようとする。	・学年が上がるにつれて表現の幅を広げるように、既習事項を繰り返し確認し、技能の定着を図る。	・鑑賞の機会を積極的に設け、鑑賞活動の意義や表現への活用を児童と共有する。
改善策 1年	・表したいことについて話したり説明したりする時間を取り、自分のイメージを主体的に表現させる。	・すすんで表したいことを見付けられるよう、材料を選択できるようにする。	・はさみ、のり、絵の具等の道具は、使い方を確認しながら、繰り返し使っていくことで定着させる。	・友達の表現の工夫を見る場を設け、自分の表現に活用するようとする。
2年	・児童にとって身近なテーマや材料を取り上げたり、それぞれの表現のよさを全体で共有することで、興味をもって主体的に取り組むことができるようとする。	・材料と関わる時間を十分に設けて、児童が思い付いた表現を試すことができる場を設定する。	・ボンドやのりを使った素材の接着や、絵の具に混ぜる水の調節を繰り返し確認し、使い方を定着させる。	・鑑賞の時間を通して、自他の作品に関心をもち、お互いの感じ方や考え方のよさを認め合い、自分の表現に活用するようとする。

3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いの表現を共有、自分の表したいことに合った表現を考える時間を設ける。自分が表現の主体となって表す楽しさを味わわせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分に合った表現を考えられるよう、材料と関わる時間を十分に設け、ワークシートや板書を活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加える水の加減・筆の使い方を自分のイメージに合わせて工夫できるように、絵の具の使い方を繰り返し確認して定着させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と作品を鑑賞し合う機会を設け、自分の表現の工夫を友達に伝えることができるようにする。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現を試すことができる場を設けることで、友達とともに表現を高め合い、各々が自信をもって自らの表現をできるように指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートや板書を活用し、児童が自分の表現の意図を考え、計画を立ててつくることができるよう指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道具を活用した絵の具の技法や、のこぎり、彫刻刀の使い方を学ばせ、表現の幅を広げさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・途中経過を鑑賞する活動を設け、お互いのよさを自分の表現に活かせるようにする。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の表現の過程や参考作品を共有する活動を設けることで、お互いの表現に触れ、それぞれの工夫を表現に活用していく姿勢を養わせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・端材を使って表現したいことを試す場を設け、発見したことを制作に活かせるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電動糸ののこぎりの使い方を学び、既習の絵具の使い方を自分の表現に活用させ、児童自身が材料や用具の効果に気付くことができるようする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参考作品や自他の作品を鑑賞する活動を設け、動きや奥行き、バランス、色の鮮やかさなどを捉え、自分の表現に活用することができるようする。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の表現の過程や参考作品を共有する活動を設ける。気が付いたことを基に自分らしい表現を考えられるように指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つくりながら表現を試行錯誤できる場を設けて、自分の表現を構想し、納得できる形や色を考えて取り組むよう指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電動糸ののこぎりやのこぎり、彫刻刀などを用いた効果の既習事項を確認し、児童の表したいことに合わせた、効果的な表現ができるよう指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参考作品や自他の作品を鑑賞する活動を設け、動きや奥行き、バランス、色の鮮やかさなどを捉え、自分のイメージと表現の工夫を関連付けられるようする。</li> </ul>

# 授業改善推進プラン 教科ごとの改善プラン（小学校 家庭科）

## 1 家庭科における昨年度の授業改善推進プランの検証

### 取り組みにおける成果と課題

#### ○成果

- 一人作業だけでなくペア・少人数グループの学習を取り入れ、衣食住に関わる実践的、体験的な活動を行ったことで、「できる自分」へと成長していることに気づく児童が増えた。
- 個別指導を通して、個人差はあるが基礎的・基本的な技能が身に付いた児童は多く、効果的であった。
- 学習を振り返り、繰り返し行なうことが、技能の定着に効果的であった。
- ワークシートや資料の活用・家庭での調べ学習を取り入れたことで、家庭科で学んだ知識を日常生活と関連づけて考えることができた。

#### ○課題

- 他教科で身に付けた知識や視点を家庭科と関連づけることができる児童は多いが、それを自ら家庭生活へ広げて工夫できる児童は少ない。
- 継続して自分で確実に作業ができる技能が定着するように、毎学期ごとに裁縫の学習を行う必要がある。
- 家庭科で学んだ知識を実際に家庭生活に生かしたり、これから自分の成長について展望したりできる児童が少ない。

## 2 家庭科における課題・改善策

	家庭生活への 関心・意欲・態度	生活を創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての 知識・理解
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習や体験学習には互いに協力して取り組むが、家庭生活への関心を高め、生活に活かしていく意欲は十分ではない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他教科で身に付けた知識や視点を家庭科と関連づけ、家庭生活へ広げて工夫できる児童は少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手縫い・ボタン付け・ミシン・調理等の基礎的な技能の個人差が大きく、製作では進度に差が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活上の課題を解決するための知識が十分とは言えない。</li> </ul>
改善方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭で取り組む課題を与えて、家庭での協力を得ながらできる事が増えていることに気付かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他教科で身に付けた知識や視点を家庭科と関連付けて、家庭生活で活用できるように自分の生活に目を向けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>製作の過程や出来上がりの写真、ビデオの活用、実演、友達同士の学び合い、個別指導等を通して基礎的・基本的な技能の定着に取り組ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確実に知識・理解を定着させるために、既習の単元の知識・理解と関連付けながら学習を進める。</li> </ul>
改善策5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業での学習が家庭での生活に活かせるように、ワークシートや資料の活用・家庭での調べ学習等に取り組ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べたことや体験したことから得た情報を、各自の生活や課題に応じて自分なりに考え、工夫していくように発表し合う場を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習や製作では、製作見本を細かく準備することで、基礎的・基本的な技能の定着を図る。また、個別指導、励ましの声掛けを多くする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミシンの学習では手縫いの学習での内容を関連付けながら、手順やミシンの部品の名前を覚えられるよう指導する。</li> </ul>
改善策6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業での学習が家庭での生活に活かせるように、ワークシートや資料の活用・家庭での調べ学習等に取り組ませ、家庭での取り組みを共有する場を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べたことや体験したことから得た情報を、各自の生活や課題に応じて自分なりに考え、工夫していくように発表し合うことに取り組ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習や製作では、製作見本を細かく準備し、基礎的・基本的な技能を活用する。また、個別指導、励ましの声掛けを多くし、児童同士の学び合いを支援し、取り組ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調理実習では5学年の栄養素の学習を関連付け、食品の分類を再確認しながら学習を進める。</li> </ul>

## 授業改善推進プラン 教科ごとの改善プラン（小学校体育科）

### 1 体育科における昨年度の授業改善推進プランの検証

#### 取り組みにおける成果と課題

##### ○成果

- ・学習カードを用いて、毎時の授業のポイントや自分の必要な練習を理解させることで、自分のめあてに向かいながら意欲的に運動する児童が増えた。
- ・アドバイスをしたり見合いをしたりする遊び合いを通して、少しずつではあるが運動の工夫の視点を身に付けさせることができた。

##### ○課題

- ・校舎改築に伴い、運動量の確保が難しい。
- ・持久力と握力が弱い傾向にある。
- ・年齢を重ねるごとに、技能差が顕著に表れている。
- ・考えながら運動をするのが難しい児童が多い。
- ・泳力が年々落ちている。

### 2 体育科における課題・改善策

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勝敗を受け入れたり、お互いを認め合ったりする態度を身に付けさせる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動の動き方や動きのポイントを知り、自分の力に合った課題を選ぶことができない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動時間の減少により、技能差が広がってきていている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康や安全な生活についての指導した知識を自分たちの生活に生かすことのできない児童がいる。</li> </ul>
改善方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関心・意欲・態度は常に指導していく。望ましい態度の児童を称賛する。また、安全面については怪我につながる恐れがあるので、厳しく指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と見合つたり教師が声を掛けたりして、よい動きや運動のポイントについて理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休憩時間に積極的に外遊びをするように、学校全体で取り組んでいく。</li> <li>・スマールステップで指導していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの生活についてふり返らせ、身近なことを用いて自分事として捉えさせる。</li> </ul>
改善策1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童がやってみたいと思えるような運動遊びを提示する。</li> <li>・安全に楽しく運動するためのルールを最初に提示し、ルールを守っている児童を褒める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と動きを見合う場面を作り、よい動きを見付けられるようとする。</li> <li>・運動遊びにおいて、楽しく遊ぶことができる場や遊び方を提示して選ばせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が説明する時間を極力減らして、運動量を確保する。</li> <li>・腕支持や逆さ感覚など身体の感覚を身に付ける準備運動や活動を取り入れる。</li> </ul>	
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習後に、「楽しかった、またやりたい」と思えるような授業展開の工夫をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体やグループ内で、友達の演技から学ぶ機会を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎となる動きは、毎時間確保することで、練習の機会が常に確保されるようにする。</li> </ul>	
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマールステップを踏んだ学習活動にする。苦手な児童が少し頑張ればできそうだという気持ちを持てるように授業を組み立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りカードを書く習慣をつける。書き方を指導するために、教員自身が学習のポイントを明確にもつ。書き方が上手な児童のカードを全体に共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマールステップを踏んだ学習活動にし、どの児童も到達できそうなめあてをもてるようになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・けがの防止や心の健康について、生活リズムや自分の体験とつなげて指導する。</li> </ul>

4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマールステップで誰でも取り組みやすい運動から取り組ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達のよい動きを見付けたり、励まし合ったりできるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カードや掲示物などを活用し、自分にあつためあてをもつとともに技能向上のためのポイントを理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・けがの防止や心の健康について、生活リズムや自分の体験とつなげて指導する。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーションで、安全に関する指導を丁寧に行い、年間を通して徹底する。</li> <li>・スマールステップで指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師→児童だけでなく、児童同士で声を掛けられるように、技を見る時の視点を与える。</li> <li>・学習カードを利用して、児童一人一人が技やゲームを振り返る時間をとる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマールステップで指導する。</li> <li>・完成形を見せて、自分の課題を明確にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・けがの防止や心の健康について、生活リズムや自分の体験とつなげて指導する。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の最初にオリエンテーションを行い、めあて、学習の流れ、安全面の配慮についての指導を行う。見通しをもたせて学習させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カードを活用し、運動で工夫したところ、次回頑張りたいことなどを振り返らせる。</li> <li>・場の設定を工夫し、運動のポイントを示したり学び合いをしたりすることで、課題を解決できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技能が高い児童を手本として見せたり、動画を見せたりすることで視覚的にイメージをもたせる。</li> <li>・主運動につながる感覚づくりの運動を多く取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・けがの防止や心の健康について、生活リズムや自分の体験とつなげて指導する。</li> </ul>